



# 進修館だより 交流マップ

進修館だよりを通じて交流させていただいている皆様を、マップに掲載していく形でご紹介します！



## ■ 進修館の棧敷

かつて大ホールの2階部分にあった棧敷。イベントの際には2階席として活用されていました。残念ながら現在は倉庫となっていて、一般の方の利用はできません。ほかにはない進修館らしい場所なので、いつか復活できるといいですね。

## ■ 町外・団体・サークルの皆様

- ・象設計集団 東京事務所（東京都狛江市）
- ・象設計集団 十勝事務所（北海道河東郡音更町）
- ・沖縄県今帰仁村役場（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- ・今帰仁村歴史文化センター（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- ・（一社）今帰仁村観光協会（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- ・古宇利島の駅 ソラハン（沖縄県国頭郡今帰仁村）
- ・（株）国建 北部事務所（沖縄県名護市宮里）
- ・森の交流館・十勝（北海道帯広市）
- ・大学セミナーハウス（東京都八王子市）
- ・入間市文化創造アトリエAMIGO!（入間市仏子）
- ・久喜市菖蒲文化会館アミーゴ（久喜市菖蒲町）
- ・CAFE パロキア（久喜市菖蒲町）
- ・珈琲パウエル（久喜市久喜）
- ・（株）ふれあいクラブ（宮代町宮代台）
- ・（株）彩和とらすとサービス（岡崎市小久喜）
- ・杉戸町障がい者支援センター（杉戸町清地）
- ・日の出（幸手市中）
- ・（株）あおば保険事務所（春日部市中央）
- ・白田陽介税理士事務所（久喜市久喜東）
- ・～語りと和楽の達人衆～ かたりと（東京都北区）
- ・（株）カンパニービュッゲ（春日部市上蛭田）
- ・（有）大城産業（茨城県古河市）
- ・（有）今帰仁城（茨城県古河市）
- ・（株）シェアリッチ株式会社（茨城県古河市）
- ・L'AUTRE MAISON 西ノ洞（群馬県館林市）

## ■ 進修館だよりで交流させていただいている自治会をご紹介します！（50音順）

- |          |         |              |             |            |           |           |
|----------|---------|--------------|-------------|------------|-----------|-----------|
| ・稲荷町町内会  | ・国納北    | ・新道第一町会      | ・中須地区       | ・姫宮北団地自治会  | ・宮代台自治会   | ・和戸1丁目町内会 |
| ・内野自治会   | ・国納南    | ・新道第2町会      | ・中寺地区自治会    | ・姫宮南団地自治会  | ・桃山台自治会   | ・和戸2丁目1   |
| ・笠原2丁目町会 | ・逆井地区   | ・辰新田町内会      | ・西原自治会      | ・藤曽根地区     | ・山崎地区     | ・和戸2丁目2区  |
| ・金原地区自治会 | ・桜木町    | ・中央第1町会      | ・東地区自治会     | ・弁天町       | ・柚ノ木1     | ・和戸3丁目    |
| ・川端一区自治会 | ・宿地区    | ・中央第2町会      | ・東桑原自治会第1地区 | ・宮代1丁目1町会  | ・柚ノ木二区自治会 | ・和戸4丁目1区  |
| ・川端二区自治会 | ・新中町会   | ・ディアコート宮代自治会 | ・東桑原自治会第2地区 | ・宮代1丁目第2町会 | ・若宮自治会    | ・和戸4丁目2区  |
| ・川端三区自治会 | ・新道三区町会 | ・道佛1区町会      | ・姫川一区自治会    | ・宮代学園台自治会  |           | ・和戸5丁目地区  |
|          |         | ・道佛3区町内会     | ・姫川二区自治会    |            |           |           |



# Community Center Shinsyukan 進修館だより

2025  
2月号



## ■ 2月号の目次

- 1 P：表紙「雪景色」
  - 2 P：「東京建築アクセスポイント来館」
  - 3 P：「今帰仁村だより」
  - 4 P：進修館NEWS（4P-5P）
  - 5 P：「今年も開催！へそたんけん 2025」
  - 6 P：「まちの皆様インタビュー！」
  - 7 P：「進修館のあんなこと、こんなこと」
  - 8 P：裏表紙「進修館だより交流マップ」
- 「全館休館のお知らせ」  
「ビュッゲコンサート in 進修館」  
トピックス「進修館の棧敷」

進修館だより 2026年2月号（第46号） 第2版：2025/01/29 発行  
 発行元：宮代町立 コミュニティセンター進修館  
 （指定管理者：特定非営利活動法人 MCAサポートセンター）  
 住 所：〒345-0822 埼玉県南埼玉郡宮代町笠原1-1-1 TEL：0480-33-3846  
 URL：https://www.shinsyukan.or.jp E-mail：info@shinsyukan.or.jp



◆ 一般社団法人 東京建築アクセスポイントのみなさんが来館しました



まずは集会室で進修館の概要をご説明。家具など建具のデザインに感心していました。



小ホールの見学では、町議会の会期以外には一般に貸出されていると知りとても驚いていました。



東京建築アクセスポイントのみなさん。この日は笠原小学校や新しい村へも足を延ばしたそうです。

2024年12月21日、東京にある建築文化資源を通じ、社会と人を結びつける公益性のある活動を幅広く展開している、「一般社団法人 東京建築アクセスポイント」のみなさんが進修館の見学にいらっしゃいました。

東京建築アクセスポイントの設立メンバーは建築家、建築史家、建築ジャーナリスト、大学教授など、全員が建築の専門家です。2023年には日本建築学会教育賞（教育貢献）を受賞しています。建築を巡るツアーやイベントを通じて建築文化の振興に努めているとのこと、この度の進修館見学ツアーの参加者も、建築に携わっている方が多かったようでした。15名のみなさまには、まずは集会室で進修館の概要をお話した後、大ホール、小ホール、ロビー、和室など館内をゆっくりとご覧いただきました。館内を巡る中でも和やかにお話しさ

せていただきましたが、会話の中でたくさんご質問からは建築への造詣の深さを感じられました。奇しくも当日は冬至にあたり、小ホール前の光路（こうろ）を冬の陽光が美しく注ぐ様子をご覧いただくことができました。

進修館の見学ツアーを企画した同団体代表の和田菜穂さんは、かつてある催しで進修館の設計者である象設計集団の富田玲子さんにお会いした際に「宮代町にある進修館はぜひ見に行ってください」と勧められ、訪れるのを楽しみにしていたと話してくださいました。宮代町が巨峰の産地ということでブドウのモチーフが取り入れられていること、家具や屋外の植栽に至るまで宮代町の風景や生活が表現されていること、長く地元の人たちに愛され続けていることなどに感銘を受けていらっしゃいました。また、室名の

表示サインの文字が特徴的であることや、小ホールに置かれている町議会のイスのデザイン、各室の扉にツイイスコンというドイツ製の鍵が使われていることなど、細部にまで行き届いている設計者の心づかいを丁寧にご覧になっていました。

東京建築アクセスポイントでは現在、「建築の見方がよくわからない」「どこが凄いのかわからない」という皆さんに向けて、建築のプロがわかりやすくその魅力を解説する企画を開催しています。「【建築入門】昭和の巨匠建築家たち」と題して昭和の巨匠たちの名建築を取り上げる講座シリーズの中で、2025年3月6日には、進修館の設計者である象設計集団とゆかりの深い建築家吉阪隆正を取り上げるそうです。会員以外でも、一般枠で申し込みができるとのこと。



【建築入門】昭和の巨匠建築家たち 吉阪隆正  
2025年3月6日開催



「建築の見方がよくわからない」「どこが凄いのかわからない」という皆さんに向けて、建築のプロがわかりやすくその魅力を解説します。

一般社団法人 東京建築アクセスポイント

建築家、建築史家、建築ジャーナリスト、大学教授など、建築の専門家によって設立された団体。東京にある建築文化資源を通じ、社会と人を結びつける公益性のある活動を幅広く展開しています。建築に関わる人や情報が集積するプラットフォームを構築し、それらを繋げていく「アクセスポイント」となる活動を目指しています。



※ このページの画像は、一般社団法人 東京アクセスポイントよりご提供いただきました。

◆ 今帰仁ウェルネスプログラム

今帰仁村は、「やんばる」と呼ばれる沖縄本島北部に位置する、歴史と自然が融合した小さな村です。世界遺産今帰仁城跡や古宇利島が観光スポットとして注目を集める一方で、「素通り観光」が長年の課題となっており、今帰仁村観光協会では、昔ながらの風情と手つかずの自然が残る今帰仁村をより深く味わっていただくため、滞在型の観光のあり方を模索してきました。なかでも着目したのは、企業のメンタルヘルス対策やウェルビーイング経営といったキーワード。ストレス社会と言われる現代において、心と体、そして社会的にもすべてが健康な状態を意味する「ウェルビーイング」への注目が高まっています。これを受け、今帰仁村をフィールドに企業の人材育成や健康経営をサポートするウェルネスプログラムの開発に着手し、2年半かけて、

自然や文化・食といった資源を活用したプログラムを構築してきました。

今帰仁ウェルネスプログラムは、「森のセラピー」「海のセラピー」「なきじん暮らし」の3つを柱として、歴史と文化が織りなす人と自然、食に触れる体験を通して、心身を整えるプログラムです。要望に合わせて事務局がプログラムを組み合わせる提案するカスタムコーディネート形式で、森・海のセラピーのほか、企業向けにチームビルディングや産業観光、アロマクラフトなど、さまざまなメニューがあります。

とりわけ特徴的なのは、このプログラムを提供する専門人材の育成です。これまでも「今帰仁村のイチバンは人だ。」と、村に暮らす人々を大切にしている観光協会では、企業の健康経営やSDGs等の座学や自然体験の実践といった独自の認定過程



を構築し、村が認定する「今帰仁ちゅーなー」制度をスタートさせました。今帰仁ちゅーなーとは、今帰仁の自然と文化を愛する「なきじんちゅ（今帰仁の人）」であり、訪れる方々が自然の中で心身を整える＝チューニングを促す人を意味します。2022年から養成講座をスタートし、第1期生として25名が今帰仁ちゅーなーに認定されました。「訪れる人も提供する人も、関わる人がみな笑顔になれる」のが、今帰仁村の観光といえるでしょう。



本島屈指の透明度を誇る海と白い砂浜の天然の浜が数多く残る今帰仁村の海。



養成講座を経て村から認定された「今帰仁ちゅーなー」の方々。



個性豊かな森をめぐる「森のセラピー」プログラム。

今帰仁ウェルネスプログラム



歴史と文化が息づくやんばるの森と海、なきじん暮らし

深い歴史と文化を持ち、小さな村ながら歴史と自然の融合を楽しめるこの場所で。ふと立ち止まり、仲間や家族・自分自身と向き合うウェルネスプログラムをご案内します。

※ このページの画像は、今帰仁村HP、今帰仁村観光協会よりご提供いただきました。

# 進修館 NEWS

## 臨時休館

のお知らせ

誠に勝手ながら下記の日程は臨時休館とさせていただきます。

- 【定期清掃】2025年2月10日(月)終日
- 【館内整備】2025年2月14日(金)16:00～21:30
- 【館内整備】2025年2月17日(月)16:00～21:30
- 【館内整備】2025年2月24日(月)17:00～21:30

上記期間内は、施設の予約受付・手続き、お問い合わせ業務もお休みします。ご不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

進修館  
共催事業

2024年度の集大成！2月のヒュッゲコンサート in 進修館

## カンパニー・ヒュッゲコンサート in 進修館



西村翔太郎 ソロリサイタル

2月2日(日) 【開場】13:30  
【開演】14:00

新城匠・西村翔太郎 コンサート

2月16日(日) 【開場】13:30  
【開演】14:00

料金：前売 大人 2000円、学生 1500円、小学生以下 1000円(当日券+300円)  
主催：カンパニー・ヒュッゲ 共催：コミュニティセンター進修館

会場：進修館 小ホール **進修館 窓口にて、前売チケット販売中！**

質の高いクラシック音楽を提供して下さる「カンパニーヒュッゲ」は、2024年度もたくさんの感動の波を進修館に起こしてくれました。コーディネートしている横田純子さんは、若手音楽家にたくさん演奏の機会を得てもらいたいとの思いで尽力していらっしゃいます。出演する音楽家のみなさんによると、「横田さん

の存在は、まるでお母さんのよう」だとのこと。演奏会を聴きにきた後に率直な感想を伝えてくれたり、コンテストでの受賞を心から喜んでくれたり、時にはおいしい食事で元気づけてくれたり…。音楽に関する部分でも、メンタル的なことでも、程よい距離感で支えているようです。進修館での演奏会においても、地域

の方々が喜んでくださるようにと選曲のアドバイスもしていらっしゃいます。だからこそ、温かみのある演奏会になるのですね。

2月に開催されるのは、進修館で開催されるカンパニー・ヒュッゲコンサートの集大成ともいえる企画です。ぜひお楽しみください！



昨年2月のヒュッゲコンサートにて。右から2人目が横田さん。

### ヒュッゲ・コンサート in 進修館 2025

日時：2025年2月2日(日) 西村翔太郎 ソロリサイタル  
2025年2月16日(日) 新城匠・西村翔太郎 コンサート  
開場 13:30 開演 14:00

料金：前売 大人 2000円 学生1500円  
小学生以下 1000円 ※当日券 +300円

出演：西村翔太郎、新城匠

問合せ：コミュニティセンター進修館

0480-33-3846/info@shinsyukan.or.jp



進修館  
共催事業

今年も開催！へそたんけん2025

2023年3月、進修館の設計理念に共感するアーティストが集結してスタートしたアートプロジェクト「へそたんけん」。進修館を設計した象設計集団は、「世の中にあるたくさんの中心が交流する場所、すなわち「世界の中心のひとつ」との思いを込めています。そんな進修館に集まる表現者たちが、それぞれが大切にしていること＝「へそ」を会期中に思

いっきり表現し合い、自分、他者、地域などとの関係を改めて体感する機会をつくるのが、このプロジェクトの目的です。3回目の開催となる2025年は、進修館オープンカレッジから生まれ、その名に同じく「へそ」を掲げる「わたしのへそ本委員会」も加わって、さらに充実した企画になる予感です。



へそたんけん

へそたんけん 2025

日時：2025年3月23日(日)  
～2025年3月30日(日)  
会場：2階ロビー(メイン会場)  
主催：へそ計画  
共催：コミュニティセンター進修館

### 参加アーティスト(2025年1月現在)

#### 浅見俊哉(あさみ しゅんや)

美術家・写真作家・造形ワークショップデザイナー。1982年東京都葛飾区生。2006年文教大学教育学部美術専修卒業。2004年頃から、「時間」と「記憶」をテーマにものを直接感光面に置き一定の太陽光で撮る写真(フォトグラム)を制作。代表作にヒロシマの被爆樹木を2012年より毎年撮り続ける『呼吸する影-被爆樹木のフォトグラム-』がある。「つくる

こと」と「つたえること」の両輪を持って活動する事が自身の芸術活動であると考え、全国各地でワークショップやアートプロジェクトを実施し、制作者と参加者が双方向的に創造力を生み出せる「場」をつくっている。近年は「さいたま国際芸術祭2023」市民プロジェクトキュレーターを務め「さいたまアーツセンタープロジェクト(SACP)」を展開した。

#### 堤直人(つつみ なおと)

立体造形作家を目指す元サラリーマンデザイナー。靴のデザイン、企業広告部での宣伝物制作を経て2019年より自由人

となり、さいたま国際芸術祭サポーターとして活動。へそたんけん2023から学生時代以来37年振りの制作活動を再開。

#### 利根川兼一(とねがわ けんいち)

オルタナスペースや人の交わりの可能性をしりたくて、空き家を利用してspace845を運営している。アートプロジェクト

を裏から支えることをやってきたが、最近は自ら表現する楽しみに目覚めてしまったかも。

space845 について



#### 日本工業大学建築学科 勝木祐仁研究室

日本工業大学建築学科の研究室。日常生活環境を歴史的視点から読み解く研究を多く行っている。場所に流れた時間、暮らしと環境の相互作用、一人ひとりの生きた時間や記憶へのまなざしを大切にしている。そのような視点を携え、まち

づくりに関する取り組みにも複数のフィールドで行っている。宮代町における「まちをアルバムにする」に協力したのを契機として、写真の中の人物の等身大パネルを制作することを手法化した。「京島をアルバムにする」で「すみだ向島EXPO」(2022年・2023年・2024年)に出展。

#### DamaDamTal(ダマダムタル)

パフォーマンスプロジェクト。中之条ピエンナーレ(2019、2021、2023)2016年、みきたまき、大塚 陽により結成。

さいたま国際芸術祭 Sightama Arts Center Project(2020、2023)  
黄金町AIR2018年レジデンスアーティスト

DamaDamTal  
ウェブサイト



#### わたしのへそ本委員会

人と人がつながる場所である進修館2Fロビーが、本を通じてさらに居心地がよくなるように、との思いで集まった「わたしのへそ本委員会」。進修館の設計コンセプトにある「進

修館は世界の中心のひとつ」に共感し、「人間の体の中心というなら、へそ」「人の大切なもの=中心=へそなのでは!」「自分の考え方や活動の基となった本=へそ本」と(勝手に)名付け、「へそ本」を通じて交流を図ることにいたしました。

## まちの皆様インタビュー！

進修館と勝木祐仁さんとのつながりは、2017年頃。宮代町の町制施行60年にちなみ、町民有志の提案で進修館が事務局となつてはじめた、地域の集会所を会場とした写真展「まちをアルバムにする」という事業がきっかけでした。今回は、対話を大切にしながら一緒にこの企画を紡いできた、日本工業大学建築学部建築学科の勝木祐仁さんにお話を伺いました。

### 【「まちをアルバムにする」を通じて】

「まちをアルバムにする（通称「まちアルバム」）」とは、地域の方々が生活の中で撮影した写真を集会所に持ち寄っていただき、それをスキャンしてデジタルデータ化し、プリントしなおして会場に展示するという企画です。地域コミュニティの拠点である集会所で行うことで、会場が地域のアルバムようになり、開催会場が増えていくことで、町全体が暮らし人々の営みが積み重なるアルバムになっていきます。この企画では、地域のお祭りやかつての町並みなどの写真のほか、家族を撮影したスナップ写真など、様々な写真をスキャンする作業を通して、提供者の方々が「この時はこんなことがあった」など思い出話をしてください。また、展示会場では「この人、最近会っていないけれど元気かしら」など、地域のつながりを感じる会話がはず

みます。この「まちアルバム」を和戸町内会の協力のもと和戸宿集会所において2017年に開催した折、ご一緒したのが日本工業大学・勝木研究室でした。「まちアルバム」に関わるにあたって勝木研究室では、写真一枚一枚に込められた物語や、暮らしについてのお話を伺う対話を大切にしています。写真をきっかけに交わされる会話などから派生して記憶をよみがえらせる様子をみるのが何よりも楽しいとのこと、波紋のように次から次へとこだまするように思い出話が呼応し、対話を通じてその人しか経験していないそれぞれが持っている風景や暮らしてきた想いなどに思いをはせられることに大きな価値を感じるとおっしゃっていました。東条原自治会の協力のもと開催した際には、写真を等身大のパネルにして展示することで、あたかも撮影した時のその場所にいるかのように感じられる空間が作り出され好評を博しました。

### 【「進修館をアルバムにする」を開催】

その後、コロナ禍の中で迎えた進修館40周年となる2020年には、「進修館をアルバムにする」と題して広く写真を募りました。シンボリックなアイコンとしてのイメージを持たれている進修館ですが、実際に写真を通じて話を伺うときわめてプライベートな思い出が語られ、個人的な記憶

このコーナーでは、宮代町に在住・在勤・在学など宮代町に関わる方々にお話を伺っています。



「進修館をアルバムにする」を通じて、誰にでもわかりやすく進修館が積み重ねてきた時間を表現してくださる勝木さん。

にたどり着くことができ、この場所で多様な人が多様な時間を過ごしたのだということを実感したとのこと。なかなか目に見えにくく、記録にも残りにくい、そこで積み重ねられた人々の時間や記憶を、等身大パネルの展示や、写真提供者のインタビューと展示の様子を重ね合わせた動画の制作を通じて表現しました。

### 【息の長いプロジェクトとして】

等身大パネルが展示された進修館は、時間を超えて様々な人の記憶が一つの空間に多層的に表現され不思議な空間になります。時を重ねた公共的な建築の新しい価値の表現として、今後もコツコツ続けていきたい、と勝木さんは話していらっしゃいました。

## 教えて、田沼さん！「進修館のあんなこと、こんなこと」第6回

このコーナーでは、進修館の建設時に宮代町役場職員として関わった田沼繁雄さんに、当時のエピソードなどを伺います。

進修館を設計した「象設計集団」が設計にあたって大切にしている「七つの原則」のひとつに「場所の表現」というものがあります。

### 【場所の表現】

私たちは、建築がその建つ場所を映し出すことを望んでいます。デザインが場所や地域の固有性を表現するよう努めます。村を歩きまわり、景観を調査して、土地が培ってきた表情を学びます。人々の暮らしを見つめ、土地の歴史を調べます。このようにして、デザインのなかにその場所らしさを表現するための鍵やきっかけを掘り起こしてゆきます。

出典：象設計集団ホームページ「七つの原則」より

「その土地らしさを表現する」ことを大切にしている象設計集団は、極力現地調査には時間をかけるようにし、そこに暮らす人々の暮らしや歴史を丹念にたどっていきます。地元の人にとっては日常の事柄になっている地域に昔から根ざすものの良さを、いわば「よそ者」である象設計集団が発見し、建物に取り入れることによって表現し

てくれています。そして「地域の人々が、その建物から自分たちの暮らし場所の素晴らしさを改めて気づき、愛着を持って使うように」と願って設計されています。

進修館を設計する際は、「世界のどこにもない建築を」との要望のもとに設計を進め、世界の歴史的な資料を調べたり、現地調査を重ねたりしながら「集会所って何だろう」

と検討することから始め、地域の人々のアイデアも取り入れながら時間をかけて取り組みました。これはまさに「作品」です。

建設時に宮代町役場の担当者として象設計集団のみなさんと時間を共にした田沼さんは、現地調査や建設の過程で、彼らと深い交流があったそうです。良いものをつくりあげるためにメンバーや業者は議論に多くの時間を費やしたそうで、白熱して帰れなくなり、田沼さん宅に泊めてあげることもしばしば。その中で信頼関係ははぐくまれ、また楽しく濃密な時間を過ごされたそうです。そんな「熱い思い」の結晶として、宮代町を表現した作品である進修館が生まれたのです。

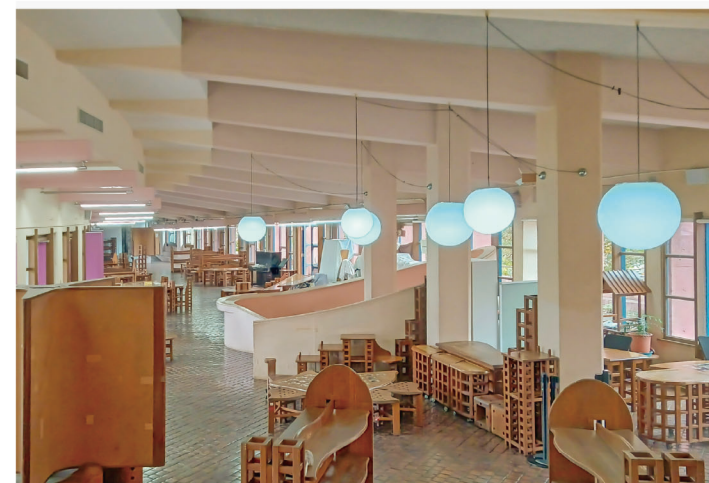
イラスト提供：象設計集団 樋口裕康氏



進修館を設計するにあたり、建築家の樋口裕康さんが描いたエスキースの数々。現地調査に基づき、様々な検討をしている様子が伺えます。

## 「外」から再発見、進修館の魅力」第4回

このコーナーは、進修館でアルバイトしている日本工業大学の学生（地元は福島県）が、町外から宮代町に越してきて感じた、進修館の魅力について語るコーナーです。



象設計集団の七つの原則、「あいまいもこ」を表現したというロビー。文字通りあいまいであたたかなカーブに包まれています。天井にある大きな梁は全て“世界の中心”に向かっているのだとか。



みなさん、こんにちは！日本工業大学建築学科1年の浦山です。今回皆さんにお伝えする魅力の場所はロビーです！進修館のロビーは朝10時から夜18時まで一般開放されており、平素から大変にぎわっています。こちらのロビーですが、実は僕が最初に

進修館で訪れたのもこの場所でした。僕が生まれ育った福島はとても田舎で人が全然いませんでした。地元では子供はおろか、大人の姿さえめったに見かけません。そんな中、8月に初めて宮代町に訪れ進修館のロビーを見たとき、大人も子供も入り混じ

って集まっている光景にとっても惹かれたのです。なにせ地元では人の声を聞くのも珍しかったのですから、その光景にとっても幸せを感じました。進修館のロビーは（というか進修館は）ほかの一般的な公共建築物とは大きく違って建物への入り口がとてもたくさんあります。進修館の特徴でもある芝生広場との関係で、入るのも出るのもまさに自由！ロビーの中に入ると宮代町を表現した家具の数々から、奥の棧敷までとても多くの座席が確保されています。大人も子供も訪れた人が各々好きな場所で様々な過ごし方をしています。僕はそんな様子もロビーならではの、宮代町ならではの景色だと思いつつも気に入っています！

今回は進修館のロビーについて“外”から魅力をお伝えさせていただきました。みなさんも進修館のロビーを訪れた際にはぜひ少し視線をあげてそこに居る“人”にも注目してみてください！



東条原自治会で開催した「まちをアルバムにする」の際に初めて登場した「等身大パネル」。その迫力に地域の皆さんも驚いていました。



進修館の開館40周年を記念して制作展示された等身大パネルたち。多様な時間と記憶が一堂に集まりました。

### 「進修館をアルバムにする」写真募集中！

長期的に写真を募り、提供者との対話を通じて進修館の記録を表現していきたい、という勝木さん。今後もコツコツと写真を募集し、この企画をゆくり育てていきたいとおっしゃっています。ご興味ございましたら、勝木研究室へご連絡ください。また、3月に開催されるアートプロジェクト「へそたんけん2025」でも展示を予定しています。

